

ARCUS

Artist In Residence - IBARAKI

現在のアート・芸術文化を守谷から。

- 問合先 アーカススタジオ (もりや学びの里内)
日・月曜日休館 ☎46-2600 (10:00~18:00)
✉arcus@arcus-project.com
- ◎詳細な情報はアーカスプロジェクトで検索!

寒い日が続きますね。いかがお過ごしでしょうか？
3組4名の招へいアーティストが帰国し、レジデンスプログラムが終了します。今回は地域プログラムのご案内です。

ヒビノホスピタル
(日比野美術研究室付属
病院放送部) vol.71 @茨城
県立児童センターこと
もの城開催!

各地の参加者との共同制作を通じ、社会で芸術が機能する仕組みを提案する

アーティスト、日比野克彦氏による好評のプログラム、ヒビノホスピタルは、1999年から続いています。内容は当日までのお楽しみワークショップ、今回はクリスマスイブに開催です。年齢制限はありません。ぜひ、奮ってご参加ください。

▼日時 12月24日(日)午後1時~4時▼会場 県立児童センターこともの城(大洗町磯浜町8249-4)▼入場料 無料▼定員 先着30人※要申込▼申込方法 電話またはメールで、氏名・住所・連絡先・年齢・参加人数を伝えて申し込み※詳細は公式ホームページをご覧ください



●日比野克彦氏

1958年岐阜市生まれ。東京藝術大学大学院修了。東京藝術大学美術学部長、同大学先端芸術表現科教授、岐阜県美術館館長。

国際交流員 ルイーザさんの MORIYA 滞在記

岐路での考え事



もし人生が一つの長い道だとしたら、私は今岐路にたどり着いていると思います。なぜなら、守谷で暮らし続けたいのか、そろそろ国際交流員を辞めて国に帰りたいのか、決める時期が今年も来てしまったからです。一方はドイツへ、もう片方は守谷へ導く岐路の、分岐点に立っているような感覚です。

ここで言っておきたいのは、決断力に欠けるのが私の最大の弱みだということ(算数・地理・虫・暑さ・早起きは別として)。日常の小さな選択にさえ迷わされる私にとって、この大事な決断を下すことは至難の業と言えますが、今後の人生を自分で決められる「贈り物」でもあると思います。歩みたい道を自分で選べる自由と、その選択に関わらず支え続けてくれる人がいることは何よりの「幸福」です。私は両方に恵まれたので、喜ぶべきだと分かっていますが、正直、「帰ってきたら嬉しい」

や「いてほしい」などと言われると、どちらかを選ぶことで誰かをがっかりさせてしまうことしか考えられなくなり、前に進むことをためらい、立ち止まってしまいます。要するに、決断の自由があるがゆえに感覚が麻痺するのです。

迫ってくる締め切りを前に焦り始めた私は、「ザ・ドイツ人」のごとく可否リストまで作ってみました。「超」合理的に決めたら間違った選択をするはずがない、と期待していましたが、リストを作った時点で分かったのは、頭で決められないものもあるということだけでした。いつも深く考えずに「勘」で決める妹グレータの姿が目の前に浮かびました。「なんとかなるさ」という妹ののんきなところは子どもの頃からずっとうらやましく、憧れるところでした。

決める方法がようやく分かりました。それは、誰かを傷つけることへの心配や、選択を誤り、後悔してしまう不安を消すことです。そうしたら、頭の中が静かになり、一つの考えが明らかになりました。「もう少しここにいたい」、必死に探していた答えはこんなに単純なものでした。

妹の言葉を頭の中で繰り返しながら「守谷」を指す看板に従い、前に歩き出し、岐路を後にします。「なんとかなる」、きっと。

